

多面的機能支払交付金に係る 広報の実施状況について

令和 2 年 3 月 5 日

農 林 水 産 省

目 次

1 多面的機能支払交付金に係る広報の実施状況について	1
2 イベント等の機会を活用した広報活動	2
3 多面的機能支払の愛称募集について	3
4 広告動画の作成・放映について	4
5 メールマガジン、Facebook等SNSを活用した情報発信について	5

1 多面的機能支払交付金に係る広報の実施状況について

- 本交付金の創設から6年目となり、農用地や水路等の保全活動が今後も継続的に行われる体制を維持していくために、活動組織の構成員等に対して本交付金の取組による“効果”を様々な機会で紹介する。
- 加えて、取組への参画をさらに増加させるために、消費者を対象とした広報活動も新たに展開する。

【シンポジウム・研修会での講演】

本交付金に取り組む活動組織の構成員を対象としたシンポジウムや研修会で講演。

＜参加者数(本省が出席した講演会等)＞

- ・全国研究会(河野委員による講演)(東京都開催)
- ・シンポジウム等講演会(地方開催)
約8千人(8道県、9会場の合計)
- ・農村振興リーダー研修
483人(全国8ブロック計)

【消費者向けイベントへ出展】

農林水産省内で開催する「子ども霞ヶ関見学デー」に加え、生活協同組合主催の「コープみらいフェスタ」へ出展。

＜主な出展内容＞

- ・「田んぼの生き物探検」VRの体験
- ・生き物カードの配布
- ・本交付金の取組をきっかけとした商品の展示及び配布

＜来場者数＞

- ・子ども霞ヶ関見学デー 約8千人(農林水産省全体)
- ・コープみらいフェスタ 約5万7千人(主催者発表、2会場計)

【愛称募集】

本交付金が親しまれやすいものになり、取組に対して多くの方に興味を持ってもらえるよう、広く愛称を募集。

募集期間 : 令和元年9月9日 ~ 12月31日

応募条件 : 原則5文字以内(1人2点まで)

応募総数 : 754点

【広告動画の作成・放映】

農業・農村の持つ多くの機能(多面的機能)について、広く一般の方々に興味を持ってもらうために、広告動画を作成。

＜広告動画放映場所・期間＞

さいたま新都心駅前 電光掲示板

… 令和2年3月4日 ~ 3月31日

YouTube (MAFFチャンネル)

… 令和2年1月10日 ~ 3月31日

【SNS等を活用して配信】

メールマガジンやFacebook等SNSを活用して、施策情報や全国各地の活動事例等を情報発信。

メールマガジン登録者数 : 4,356件

Facebookフォロワー数 : 約3万7千人

2 イベント等の機会を活用した広報活動

- 全国各地で開催されるシンポジウムや研修会の場を活用して、講演を行い本交付金の取組とその効果を紹介した。
- 今年度は、新たに生活協同組合と連携し消費者向けのイベント『コープみらいフェスタ』に出展した。

	講演	ブース展示	研修会
これまでの 広報実績	・『全国研究会(東京都)』(11月6日) ・兵庫県小野市(8月4日) ・新潟県南魚沼市(8月20日) ・新潟県刈羽村(8月21日) ・沖縄県石垣市(8月26日) ・秋田県大仙市(9月3日) ・鹿児島県鹿児島市(11月7日) ・愛知県名古屋市(1月23日) ・徳島県徳島市(1月23日) ・北海道札幌市(2月14日) ・東京都千代田区(2月20日) ・埼玉県さいたま市(※2月20日中止) ・沖縄県那覇市(※3月4日中止)	・『こども霞が関見学デー(東京都)』(8月7日～8日) ・『コープみらいフェスタ(東京都)』(9月29日) ・『コープみらいフェスタ(埼玉県)』(10月20日) ・『コープみらいフェスタ(千葉県)』(※2月23日開催予定であったが、中止となった)	・農村振興リーダー研修 - 近畿ブロック(8月22日～23日) - 北陸ブロック(10月29日～30日) - 中四国ブロック(11月6日～7日) - 東北ブロック(11月12日～13日) - 関東ブロック(11月26日～27日) - 九州ブロック(12月4日～5日) - 北海道ブロック(12月11日～12日) - 東海ブロック(12月18日～19日)
状況写真			

3 多面的機能支払の愛称募集について

- 本交付金が親しまれやすいものになり、取組に対して多くの方に興味を持ってもらえるよう、広く愛称を募集したところ、応募総数は754点であった。
- 愛称の選定においては、行政担当者や一般の方の様々な意見を踏まえて最終決定し、8月頃公表する。

愛称募集の概要

「多面的機能支払」は何を意味するのか分かりにくいという声があるため、本交付金が多くの方々に愛され、親しみやすいものとなるよう、広く愛称を募集した。
採用された愛称は、HPや印刷物等、様々な形での活用を予定している。

募集期間：令和元年9月9日～12月31日

応募条件：原則5文字以内（1人2点まで）

応募総数：754点

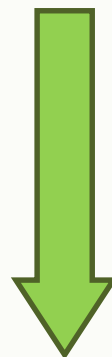


愛称募集のチラシ

愛称の選定基準

1. 新規商標登録が可能なものを選出。
2. 3つの評価項目を設定し、評価する。
 - ・類似した組織名等がない。
（インターネットで決定された愛称を検索した場合、上位に多面についてのページが表示される）
 - ・多面の活動をイメージできるか
 - ・愛され、親しみやすいものか

今後のスケジュール



- ・農村振興局長による最終決定
- ・愛称の公表（8月予定）
（プレスリリース、HP、メルマガ、Facebook）
- ・農村振興局長による表彰等（時期未定）

4 広告動画の作成・放映について

- 農村に興味を持ってもらう、農業・農村が有する多面的機能について知ってもらうこと等を目的として広告動画を作成した。
- 広告動画は、さいたま新都心駅前の電光掲示板やYouTubeのMAFFチャンネルで期間限定配信している。

動画内容



動画概要

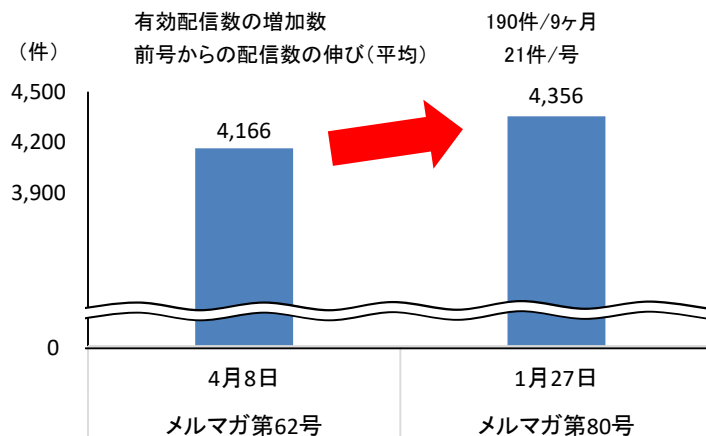
- 農村を守る地域の活動を、映像と詩で紹介している。
- 動画BGMは、農林水産省の「FAN/バサダーロック※」に任命されている「打首獄門同好会」の「日本の米は世界一」等を使用している。
- 動画は、以下の場所・期間で配信している。(MAFFチャンネルURL: <https://www.youtube.com/watch?v=54O0PsMqJIM>)
さいたま新都心駅前 電光掲示板・・・令和2年3月4日(水)～3月31日(火)
YouTube(MAFFチャンネル)・・・令和2年1月10日(金)～3月31日(火)

※国産農林水産物の消費拡大のための国民運動「FAN(フード・アクション・ニッポン)」の取り組みの一環として、SNS等で情報発信する方を「FAN(ファン)バサダー」に任命している。

5 メールマガジン、Facebook等SNSを活用した情報発信について

- SNS等を活用して、施策情報や全国各地の活動事例等を情報発信している。
- メールマガジンは、月2回程度配信しており、その登録者数は4,356件で毎年増加している。昨年4月からの9ヶ月間で見ると、190件増加した。さらに、今年度は「活動組織の代表者インタビュー」をメールマガジンにて発信している（今年度、計9件の記事を配信予定）。
- Facebookは月1回程度配信しており、そのフォロワー数は約37,000件である。

<メールマガジンの有効配信数>



<メールマガジンのインタビュー記事について>

配信号	配信日	組織名	都道府県
第73号	10月15日	蓮潟(はすがた)環境保全チーム	新潟県
第74号	10月28日	岩見沢南地域資源保全協力会	北海道
第76号	11月25日	有協(ありわき)の農地・水・緑を守る会	愛知県
第77号	12月9日	志田谷地(しだやち)地域環境保全組合 農地・水・環境保全管理協定	宮城県
第78号	12月23日	ごかせ広域協定	宮崎県
第79号	1月14日	谷(たに)農地・水委員会	島根県
第80号	1月27日	城辺(ぐすくべ)地域農地・水・環境保全組織	沖縄県
第81号	2月10日	布里田中(ふりたなか)の地域資源を保全する会	埼玉県
第83号	3月9日	浅野美しい村づくり活動組織	兵庫県

インタビュー記事の例

■活動組織の代表者インタビュー(抄)

～志田谷地地域環境保全組合農地・水・環境保全管理協定(宮城県大崎市)～

～インタビュー～

Q: どのような経緯で組織を立ち上げられたのでしょうか。

A: 本組織は、平成19年度の「農地・水・環境保全向上対策」制度のときに立ち上がりました。昔は農業集落には当然のようにあった「ゆい(結)」の精神。多大な労力と時間を要する作業は、集落のみんなが総出で助け合って行く。近頃、そんな「ゆい」の精神が薄らいできたと感じていた矢先、共同活動を基本とする本制度ができると聞いて先代の会長が奔走、組織を立ち上げました。平成23年度には広域化を図り現在に至っています。



左: 板垣 勝(会長)
右: 武藤 勝美(会計)

Q: 代表(役員)として心がけていることはありますか。

A: 先の質問で若い人たちの参加が減っていることが気がかりとお話しましたが、代表としては、構成員が「参加して良かった」と思って頂けるような活動づくりをしていくことが、自ずと参加率向上に繋がるものと考えています。一方で、本交付金の活動は農地や農道等の管理に直結するものであるため、せっかく参加して頂く構成員にも、しっかりとした作業を行っていただくよう指導する必要があります。言葉は悪いですが、アメとムチのバランスには苦勞しているかもしれません。併せて、活動中に怪我がないように安全管理には十分気をつけています。

Q: 最後に今後の展望や目標をお聞かせ下さい。

A: まずは、長寿命化の活動において、補修や更新を行わなければならない施設が多くあるため、計画に沿ってコツコツと実行していきたいと考えています。また、草刈作業負担の軽減のため、カバープランツ等にも取り組んでみたいと考えています。構成員から「活動を行って良かった」「活動に参加して良かった」との声が聞けるよう、努力していきたいと思ひます。

最後に、組織を代表してのお願いですが、多面的機能支払交付金は地域にとって、非常にありがたい制度となっておりますので、是非とも継続して頂きたいと思ひます。